

紀州版



桃

和歌山県 和歌山市
 (読者サービス)

和歌山支店 〒647-0032
 和歌山市橋本2-1-1-91
 TEL 0735-221-3737
 FAX 0735-221-3738

和歌山支店 0587-8512043
 FAX 0587-8804801

三郷支店 〒554-0903
 堺市東区南2-27-2
 TEL 059-228-2131
 FAX 059-228-6213

和歌山支店 059-228-3198
 FAX 059-228-7299

伊勢支店 0590-2212811
 FAX 0590-2213521

松阪支店 0588-218148
 FAX 0588-280207

伊勢支店 0585-2213241
 FAX 0585-2404310

尾鷲支店 0587-2201182
 FAX 0587-2201771

高野支店 0589-2512043
 FAX 0589-2512090

志摩支店 0599-1431154
 FAX 0599-144-0028

和歌山支店 0587-1471724
 FAX 0587-14711487

ニュースは上の電話へ
 読者センター
 052-221-0800

読者のお申し込みは
 読者サービスデスクへ
 TEL 059-221-3530

ご自宅へお届け
 送料別
 配達エリア

平交
 会館
 和歌山支店

和歌山支店 059-221-0800
 059-221-0800
 059-221-0800

0120-999-444

TRUKA
 抽賈収容所の
 記憶

じつやかに仲間と談笑する
 老人が、奥の扉を叩き開き、

「日本人なんか大嫌いだ。
 今すぐ、ここから出ていけ」
 話し掛けたのは、英兵団「アガ
 ベワールド」代表の男子・ホ
 ームズだ。おぼろげに人
 まにに控えられた。

一九九一年の三月十日、
 英・ロンドンで開かれた極東
 捕虜クラブの全国大会。第
 二次世界大戦中に日本軍の捕虜
 となり、飢餓や鉱山での強制
 労働を体験した元兵士捕虜
 の手人が一堂に集った。
 親子そろっての親戚の中、男子
 は一枚の写真をもとの老人に呈
 し出す。亡き英国捕虜を写す
 墓碑が目に留まる。「日本人
 は善いことをしよう」とかぞよ
 か。「若い元捕虜の種やかな
 な表情に、男子は涙を一つ果
 り落とした気がした。

英国人の夫を亡くした女子
 は八八年、故郷の熊野市紀和
 町を訪れた。名古屋府東区管
 内所屬四分所で亡くなった英兵
 捕虜十六人の墓を地元のお年
 寄りが守っていること知り、心
 を動かされた。

「英国にいる元捕虜は、古
 里の真心を伝えられたらいい」。

心の闇晴らした墓参



III
 男子はロンドンに帰った後、
 元捕虜の一人に手紙を書き、
 交際の窓口をつかろうとして
 いた。

戦争の記憶がまだ濃かった
 時代、英国の新聞やテレ
 ビは、捕虜を虐げた日本人
 を批判し、英国兵士の反日感
 情はつねりとなって広がり、
 日本兵の死を「おまえ」

と罵り、
 「捕虜を苦しめた日本人
 が、手をさしのべるべきで
 は」。乾癆なクリスチャンだ
 が、手をさしのべるべきで
 は。乾癆なクリスチャンだ
 った男子は元捕虜に告白して
 もおろとされた。

戦後にはこぼれぬか
 「日本にはそんな態度はな
 らない」と、知り合った女子ら
 の手紙を出版した元兵士ジ
 ム・ウォーカー(故人)も
 ようなもので、日本に来て、
 「日本にはそんな態度はな
 らない」と、知り合った女子ら
 の手紙を出版した元兵士ジ
 ム・ウォーカー(故人)も
 ようなもので、日本に来て、

憎悪超え元英兵が来日

九二年十月九日、式典には
 市民や支援者、メディアも話
 した。友の墓前に心
 は切れた。

憎悪超え元英兵が来日
 九二年十月九日、式典には
 市民や支援者、メディアも話
 した。友の墓前に心
 は切れた。

「憎しみを胸に
 長年苦しんだ捕虜時代の想
 念にぶたされることもなく
 七十年代の元捕虜とその家族
 だった。彼らの多くが他郷に
 二十六人が、紀和町の追悼
 式典に出席することが決ま
 った。

機上の人になっても元捕虜
 の表情はさへなかった。で、
 「戦友がこんな思いで死んで
 いくのは、あはれと涙を
 流した。

和歌山支店 0587-2201182
 FAX 0587-2201771
 高野支店 0589-2512043
 FAX 0589-2512090
 志摩支店 0599-1431154
 FAX 0599-144-0028
 和歌山支店 0587-1471724
 FAX 0587-14711487

和歌山支店 0587-2201182
 FAX 0587-2201771
 高野支店 0589-2512043
 FAX 0589-2512090
 志摩支店 0599-1431154
 FAX 0599-144-0028
 和歌山支店 0587-1471724
 FAX 0587-14711487



I R U K A

捕虜收容所の 記憶

粗末な板塀の隙間に片目を押し当てて、そっと中をのぞく。「イギリスの兄ちゃん、おらんかな」。村の大人に近づくことを禁じられていたせいか、胸の高鳴りを抑えられなかった。

熊野市老人クラブ連合会長の更家盛一郎(モト)＝同市紀和町板屋＝は六歳の時、自宅近くにできた名古屋俘虜收容所第四分所を何度も見に行った。

時折、軍のトラックが出入りする以外は、高い板塀で集落と隔離されていた收容所。三種が並んだ木造二階建ての施設。しかし、山あいの集落では軍の監視も緩く、作業の合間に勤労動員の学生が捕虜と話をすることもできた。

紀州鉾山では掘削作業のほかに、捕虜は山から一・五メートル離れた場所で、採掘で不要になった泥を捨てる作業もした。作業場のそばに母トノ(故人)の実家があり、にわか雨が降ると、捕虜が軒先を借りてきた。「何て規律正しいんだらう」。幼心に、軍紀を乱さ

亡き家族 重ねて弔い

II

墓守った地元お年寄り

ず整列する姿にあこがれた。こりとほほ笑み返した。

監視兵の目を盗んで、更家 日本は山で採ったキイチゴを、英 四五年八月十五日。村では戦

兵にそっと手渡した。「腹へ 勝国となった英兵の暴動を心この兄ちゃんたちを助けたか 配する声も上がった。「そんな」。

ノは、息子にそう言い聞かせくれる人がおるかもしれん」戦争末期の混乱に巻き込ま

「身ぶり手ぶりで意思 間近で兵士の姿を見てきたト

九月下旬。三百人の英兵のれ、満州にいた更家の長姉・うち、生き残った二百八十四 マツ枝は命を落とす。英人が十数台の軍用トラックに 兵を弔うことで、亡き娘を供分乗して村を後にし、帰国し 養ったかたの「は」。更家た。更家もユニオンジャック は母の言葉をかみしめる。あ



(敬称略)

①亡くなった英国兵捕虜を悼み、今も続く地元のお年寄り有志による墓地の清掃活動。更家盛一郎さん提供

②当時の写真を見ながら、元捕虜の英兵らと交流した思い出を話す更家さん。いずれも熊野市紀和町板屋で